

京都工木スコ

2025年（令和7年）1月号

編集・発行 京都ユネスコ協会事務局



京都ユネスコ寺子屋・旅の学校 2024 の一コマです

奈良県吉野郡川上村の匠の聚アトリエで岸上さんから、日本画の絵の具造りを体験して、絵具づくりなど日本画を学びました

目 次

2025 年を迎えてのご挨拶	吉田敦彦	p 2
京都ユネスコ芸術展 2025	岸上ゆか	p 3
近畿ブロック・ユネスコ活動研究会 i n 高野山から	松浦三郎	p 4
京都ユネスコ寺子屋・旅の学校 2024 報告	吉田敦彦	p 5,6
第 63 回 京都ユネスコ協会「自然観察展」	事務局	p 7
日本ユネスコ運動全国大会 i n 新居浜に参加して	加藤功治	p 8
こども食堂とおとな食堂 ―自立できるボランティア活動を目指して―	西川昭寛	p 9
京都ユネスコ寺子屋 ユースゼミナール ―ケニヤ・マゴソスクール 早川千晶さんを囲んで―	吉田敦彦	p 10
日本語教室と日本語教育の現状	西川昭寛	p 11
英語教室 K さんを囲んで	前田久夫	p 12
名刺交友録		p 13
今後の活動予定	事務局	p 14

お詫び

事務局 加藤功治

ホームページが開けなかった事へのお詫び

9 月 18 日ごろから京都ユネスコ協会のホームページがご覧になれない状態になりました。皆様にはご迷惑をかけて申し訳ありません。ホームページを作成する業者を変更するなどして、やっと 12 月 25 日に大部分が回復しました。

バックアップが取れていなかったため、再開に長い時間がかかりました。また、トップページ等見にくい所もあり、未だ「現在の活動報告」など掲載出来てない項目も有ります。少しずつ修正し、掲載していきますのでよろしくお願い致します。

2025 年を迎えてのご挨拶

京都ユネスコ協会会長 吉田敦彦

あらためまして旧年中の御芳志への感謝と共に、新春のご挨拶を申し上げます。

去る年に、長年にわたり京都ユネスコ協会をお支え下さった故相大二郎会長より拝命し、不肖ながら重責のトーチを引き継ぎました。訃報のあとは敬愛する相先生を悼み偲びつつ、ともかくも伝統ある京都ユネスコ協会の灯を消さぬよう、次の世代にも受け渡していけるよう、皆様方のご指導ご協力を頂戴して新参者ながら務めてまいりました。

ご無沙汰のまま、ご心配いただいている向きもあろうかと存じます。この場を借りまして、京都ユ協の活動の近況をお伝えし、ご挨拶とさせていただきます。

先輩諸氏が大切に育てこられた自然観察展は、加藤事務局長はじめとするスタッフのご尽力でコロナ渦を乗り越え、盛況のうちに第63回を完遂できました。中断していた美術工芸展は、京都ユネスコ芸術展として3年前より再興に向けてチャレンジしておりましたが、多方面からの出展数も増えて軌道に乗りつつあります。英語教室や日本語教室も例年通り月二回のペースで催行しています。

新規に採択された日本ユネスコ協会連盟 U-Smile 事業の助成を得て、京都ユネスコこども食堂と京都ユネスコ寺子屋を立ち上げることができました。子ども食堂は第3土曜日に開催し、11月には京都植物園で子どもたちの絵画共同制作 (Big Draw) を実現しました。寺子屋は、試行的にはあれ月1回程度の親子クラス、夏期集中講座、そして「旅の学校」を成功させることができました。

特筆したいのは、次世代ユース (高校生・大学生) に参加してもらえるイベントが立ち上がってきたことです。こども食堂と併設している居場所に若者ボランティアが毎回のように参加し、寺子屋のユースゼミナールではケニアのスラムで寺子屋を長年運営してきた早川千晶氏を招いての研修会を行いました。

そのような活動の成果として今年度に入って久しぶりに青年会員が一気に5名入会しました。また、そのうちの1名が、ユネスコ協会アジア連盟の主催するカザフスタンでの国際ユースフォーラム (新年2月) に日本代表して派遣されるという運びとなりました。ユネスコスクールをサポートするために京都市教育委員会とのテーブルも持てるようになってきました。

ご高配を賜って賀茂御祖神社 (下賀茂神社) にて開催しました6月総会にて、今年度からスタートアップする新方針として、1) 次世代ユースの活性化、2) 日ユ協連事業との連携、3) 常任理事会の実質化の3本柱をご承認いただきました。ほぼ毎月開催してきた常任理事会では、それぞれの担当理事からご報告を受けて協議しています。

このように慎ましくも何とか、次のステージへ向けて第一歩を踏み出しました。ご挨拶も十分にできないまま慌ただしく始動し、至らぬ点多々あったことかと存じます。失礼の段はお許してください。本年、まさにこれからが大切ですので、会員・理事の皆様から温かいご協力を賜りたく、何卒よろしくご報告申し上げます。

詳しくは本誌をご覧いただきたく最近の活動の一端をご報告し、ご挨拶とさせていただきます。

京都ユネスコ芸術展 2025

岸上 ゆか

「京都ユネスコ芸術展」は芸術から平和への橋渡しとして開催されます。芸術展は来年度で3回目を迎えます。京都ユネスコ芸術展の出品作品の募集をさせていただきます。

芸術文化を通じて広く平和をアピールする機会として「京都ユネスコ芸術展」を継続し、国籍やジャンルに関係なく、枠に囚われない個々それぞれの自由な感性によって表現し平和へのメッセージを後世に繋げて行きます。

概要

会場: 堀川御池ギャラリーC
会期: 2025年5月17日(土) 11:00~19:00
18日(日) 11:00~17:00
搬入: 5月16日(金) 11:00~14:00
展示: 同日 14:00~19:00
搬出: 5月18日(日) 17:00~19:00

*搬入出、展示は各自で行う。

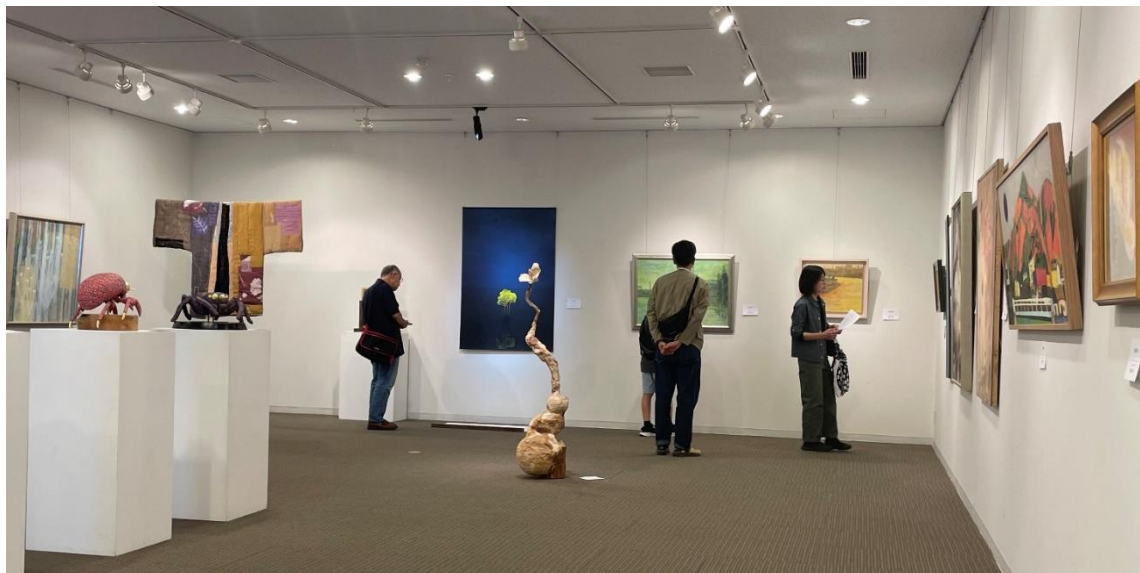
ジャンル: 平面(日本画.洋画.写真.版画.書など) 立体(彫刻.タペストリーなど)

サイズ: 1人壁面3mまで 立体3m²

出品料 3,000円(点数に関係なく)

出展申込み締切り 3月31日

申し込み、お問い合わせ 京都ユネスコ協会芸術展 sansenkouki@gmail.com(岸上)まで



2024年の京都ユネスコ芸術展の会場風景です

「近畿ブロック・ユネスコ活動研究会 in 高野山」から

松浦三郎

高野山は、いうまでもなく平安初期に空海がひらいた…。山上はふしぎなほどに平坦である…。司馬遼太郎の「高野山管見」(歴史の舞台 文明のさまざま)の一文に誘われるままに…。そびえ立つ大門(25.1m 重層の楼閣)から入った。

10月27日、高野山大学松下講堂にて、「近畿ブロック・ユネスコ活動研究会 in 高野山」がひらかれた。オープニングイベントは和歌山県立橋本高校邦楽部・琴の演奏。幻想的な夏の風景を奏でた。開会宣言、日本ユネスコ国内委員会報告、日本ユネスコ協会連盟報告の後、山中典朝氏による基調講演「高野祈りみち～町石道をゆく」と続く。

聖地・高野山へ向かう道の一つが、九度山・慈尊院から大門へ通じる表参道(高野山町石道)だ。木製の卒塔婆(道標)を空海が建て、その後、覚きょう上人が石造の町卒塔婆建立を発願し、鎌倉時代(1285年)に完成。この町石(石柱)という言葉は、「町」という109mに相当する長さの単位と「石」を合わせたもの。高さは3m、五輪塔(五重の塔)の形に彫られている。はるか平安の昔から、高野巡礼の人びとは、この町石を頼りに「祈りみち」を歩き…。〈命とはなにか〉、〈生きるとはなにか〉、〈豊かさとはなにか〉などを問いながら、自らに向き合ってきたのかも知れない。

休憩後、高野山小学校の实践活动「英語で伝えよう！私のこと、ふるさとのこと」報告。高野町から「子ども観光大使」に任命された小学6年生の活動だ。川西ユネスコ協会「かわにしのをたからもの発掘運動」の活動事例報告、和歌山県立橋本高校放送部「グローバル化への第一歩」(手作り・ラベルで繋ぐ世界)・第71回 NHK 杯全国高校放送コンテスト・テレビドキュメント部門出品の紹介。総評、そして閉会后、大圓院の懇親会でさらに交流は続いた。ひとと人が出会い、共に学び合い、育て合い、支え合う。とてもうれしい時間だった。

標高860m、朝晩は冷え込む。大圓院宿坊、早朝6:00の勤行、阿弥陀如来に手を合わせ…瞑想…。僧侶が日本語・英語で法話を説く姿には驚いた。町を歩いているひと、宿坊に泊まっているひとの多くは外国からの訪問者だ。高野町は寺院から流れる声明と多様な言語が響き合う宗教都市だ。さまざまな文化や歴史、宗教、言語、価値観などが、他国からの訪問者によって、この高野山に持ち込まれ、そこに描き出される風景に不思議な新鮮さを感じる。

過日、東京国立博物館(特別展・はにわ)を見た。遠い昔、南北に連なるこの島国に暮らす人びとがつくった「はにわ」が並び、やさしく微笑みかけてくる。「古墳時代は平和だったのだろう…。心地よいぬくもりが表情にあふれている。自由を満喫できる社会だったのだろう…。」2024年12月、カザで、ウクライナで、世界で、多くの人びとの命が奪われている。この痛ましい惨状を前にした『平和』とは、無条件の人命尊重ではなく、それを実現するための生命をかけた戦いになっているように思えてならない。



京都ユネスコ寺子屋・旅の学校 2024 報告

吉田敦彦

この夏、U-smail 事業の助成をえた京都ユネスコ寺子屋では、旅の学校 2024 を実施しました。奈良県吉野郡川上村にある「芸術家たちの生活と創造の場、訪れた人が自然やアートと触れあうスペース」＝<匠の聚(むら)>で宿泊し、そこにアトリエをもつ京都ユネスコ協会の岸上ゆか理事のアートワークショップや近隣の自然・文化の体験学習を行いました。

子ども 16 名、保護者 8 名、引率講師 1 名、スタッフ 4 名の 29 名（うち日帰り参加 8 名）が楽しく学び合い、交流を深めました。以下にそのご報告です。

- ・日時：2024 年 8 月 22 日（木）～23 日（金）
- ・滞在先：奈良県吉野郡川上村 <匠の聚> コテージ、研修室など
- ・プログラム：

22 日

11:00～ 宮滝しょうゆ梅谷醸造元、順次 3 グループで蔵見学。<https://www.umetani.jp/>

100 年以上使われている吉野杉の大桶。伝統的な醤油醸造の現場を職人さんが案内

12:30 頃 食事（お弁当持参）川遊び @あきつの公園 河原でスイカ割



声：この夏最初で最後の水遊びでした。幼い子たちと関わり、頼られると、わだかまりの心もほぐれて、無心になって水遊びをする。とても貴重な体験をさせていただきました。

14:00 頃～ 蜻蛉の滝周辺自然散策

16:00～17:00 匠の聚アトリエ：岸上さんの案内見学、日本画の絵の具など説明

17:30 頃～19:30 チェックイン、夕食

19:30～ 夜の昆虫観察会／杉の湯温泉



23日

10:00~12:00 日本画の絵具づくりワークショップ@研修室 (講師: 岸上ゆか)



声: 娘は日本画の体験がとても充実していた様子で、学校で夏休みの体験を話した時に、この楽しい出来事を話し、話足りなくて他の子の時間までたくさん話したという事を聞きました。自分の好きな色を地球からもらって絵にするなんて、本当に素敵な体験でした。

14:30頃~ 不動窟鍾乳洞の探検 15:45 解散のご挨拶

声: ○旅全体、みんなで過ごすこと自体、お泊まりのわくわくも満喫していました。顔彩作りのWSでは好きな色作ってそれを重ねていくうちに出来上がっていく、色の移り変わりを満喫したように絵に現れていました。出来上がった絵と額縁をととても喜んでます。

○鍾乳洞が1番印象に残っているようでした。先生が事前にクラスでやってくださった鍾乳洞のお話と塩を作る実験が彼の中で蓄積されていて、そうやって時をかけて出来上がった洞窟を探検したことに心動かされたようでした。

第63回 京都ユネスコ協会「自然観察展」

事務局

秋恒例行事の「自然観察展」は、今年度は11月2日、3日の開催となりました。会場は引き続き元山王小学校体育館です。



本年度は一校の作品数を7点から5点に減らしましたので、作品数は50点程減りました。また、先生方の働き方改革の影響か参加校は少し減りました。

応募作品数は、小学生の作品が24校より96点、中学生の作品は9校より41点、小中一貫校1校の参加で、合わせて137点です。部門別では、生物51点、物理21点、化学29点、地学21点、SDGs15点です。今年度も生物部門の作品が多く、化学部門やSDGs部門の作品は減少が目立ち、地学部門は逆に増加しました。各作品は各自でテーマを見つけたもので、表題の付け方も興味深いものが有りました。

今年度も、会場設営と片付けにはシルバー人材センターの方に加えて、ボランティアの大学生の力を借りました。大学生には、協会会員に交じって、作品受付や返却の手伝いもして頂きました。実動できる会員が少なくなっている中、このように会員以外の方の協力があったお陰で、作業は順調に進みました。

多くの作品は夏休み中に時間をかけて作り上げたことでしょう。展示会前日に、京都市青少年科学センター専門主事の3名の先生に作品の審査をして頂きました。その中で、小学生の作品14点と中学生の作品7点が優秀作品として選ばれました。また、私立小学校の作品には各校1点の「京都府私立小学校連合会賞」が選ばれました。そして、本年度は京都ユネスコ協会から入賞者の無い学校の作品の中から各校1点に「ユネスコ探究賞」として賞状を渡しました。

11月2日(土)、3日(日)には全作品を展示しました。2日間で出品者や家族親族、学校関係者や一般の方等、300名余の参観者があり、熱心に楽し気に見ておられる姿が見られました。表彰式は行わずに、表彰状は入賞者の有る学校に取りに来ていただきました。11月28日までに全校にお渡ししました。

この行事が、少しでも子どもたちに自らテーマを見つけて追及することの面白さを感じ取る機会となればと思っています。

展示会場には寺子屋募金箱を置き、2日間で3,630円の募金を頂きました。後日、日本ユネスコ協会連盟に寄贈しました。

第80回日本ユネスコ運動全国大会 in 新居浜に参加して

加藤 功治

2024年11月23日(土)に愛媛県新居浜市のリーガロイヤルホテル新居浜で第80回日本ユネスコ運動全国大会が開催されました。全国から約340人のユネスコ協会会員などが参加しましたが、近畿からの参加者は少ないようでした。本協会からは松浦三郎氏と私、2人だけの参加でした。

記念講演は「SDGsの先進事例から学ぶ―別子銅山の環境対策から新居浜港CNPへ」のテーマで住友資料館顧問の末岡照哲氏が話されました。新居浜では明治26年から、新居浜精錬所から出た亜硫酸ガスが農産物を枯らす煙害が発生し、精錬所を瀬戸内海の無人島に移転したが、煙害は拡大しただけでした。煙害を減少させる為に、住友肥料製造所(現住友化学)を作り硫化鉬から化学肥料を生産して、環境問題を解決したという。また、煙害で荒廃した山々には植林(100万本/年)をして緑の山に戻しました。SDGsが叫ばれる100年前に別子銅山・新居浜では先駆的实践がなされたというお話でした。

実践発表は地元の県立新居浜南高校ユネスコ部の活動の紹介や新居浜市立多喜浜小学校の「塩田を未来に伝えよう」、新居浜市立惣開小学校の「SDGs達成のためのESD―学校と地域のパートナーシップによる協働的なESD活動を通して」、新居浜市立船木中学校の「ユネスコスクールを活かしたESD(持続可能な開発教育)の実践を通して」の短い時間の活動での発表でした。新居浜市ではすべての小中学校がユネスコスクールになっているとの事です。

日本ユネスコ協会連盟の鈴木理事長は講評(総括)で「大学生の活動の話が出なかったのは次初代のユネスコ活動をする人材養成の観点から寂しいと」言われました。

1日開催(12時半から17時20分)でしたので、記念講演(1時間)と実践報告(1時間半)だけしか無く、開閉会式やオープニング演奏、合唱披露(高津小学校合唱部)の時間が多く、内容の有るプログラムが少なく物足りない全国大会でした。

懇親会は18時半から(参加者250人ほど)でリーガロイヤルホテル新居浜の全国大会と同じ会場で行われ、全国のユネスコ協会の方がたと懇親を深めました。私は大会や懇親会を通じて、お国自慢が目立ったように思いました。

24日のエクスカージョンで別子銅山記念館や東平(東洋のマチュピチュと言われる銅山の施設)を観光しました。記念館には住友の別子銅山の歴史が展示されていましたが、朝鮮人働労者に関する展示は有りませんでした。

次回の第81回全国大会は2025年10月18日(土)に石川県ユネスコ協会が中心となって、金沢市で行われます。京都からも多数の方が参加されますように願っています。

こども食堂とおとな食堂

—自立できるボランティア活動を目指して—

京都ユネスコこども食堂・代表 西川昭寛

今年の5月から京都ユネスコ協会が寺町夷川のCIGOTONOBAでこども食堂を始めました。開催日は月一回、第三土曜日で、時間は16:00-18:00の2時間で、2024年は8回開きました。こども食堂の活動は学生の方々を含め常時10名程度のボランティアの方々に支え頂いて頂きながら、経済的には日本ユネスコ協会連盟から年間を通じた助成金を頂いています。それ以外でも京都市中京区福祉協議会から頂いた助成金はホームページの製作費用に充てました。食材は京都フードセンター（京都府福祉協議会）、フードバンク京都、セカンドハーベストや、足立病院から提供を受け、農林省からは備蓄米の提供を受けています。



こども食堂は1階の給食部門と2階の居場所部門で構成されていて、1階の給食部門ではこども達に無料でカレーを提供し、保護者の方かたからは300円を頂いています。2階の居場所部門ではアトリエトリノスから梁川先生をお呼びして野辺の草花を教材にしながら子供たちがアートとして自由な表現を体験し学ぶことをめざす教室です。

11月のこども食堂は植物園で「BIG DRAW」を開催し、その作品をイギリスのラスキン賞に応募しました。これらのレベルの高い居場所作りが私どもこども食堂の第一の特徴です。

第二の特徴は私共のこども食堂が自立できるボランティア活動を目指していることです。

現在の運営は助成金を頼りにしていますがいつまでも助成金が続くわけではありません。かと言ってボランティア（活動者）の出費におもねることはできません。この問題の解決として私どもはこども食堂の後におとな食堂（居酒屋・へーべ）を開くことで、そこでの収益をこども食堂に充てることで、3年先の自立に向けた取り組みをしています。居酒屋・へーべは相前会長のお別れ会やミャンマー支援活動の報告会、ラスキン展の紹介やコース、年末望年会の会場として、更には“京都ユネスコ協会の会員ロビー”として等、多目的に活用されています。



2024年11月17日(日) 14時~16時

京都ユネスコ協会・元山王小学校「ふれあいルーム」

主催:京都ユネスコ寺子屋プロジェクト 企画コアメンバー
高校生・大学生 6名

参加者:コアメンバー6名に加えて、当日参加のユース5名、スタッフ5名の16名。

京都ユネスコ寺子屋では、子どもたちの豊かな学びを保障する寺子屋を若者たちと共に運営していくことを目指しています。そのため、高校生・大学生とユネスコの世界寺子屋運動の取り組みなど関連する研修を行うユースゼミナールを積極的に開催していきます。

今回は、その初回となるチャレンジでした。幸い、ケニアのスラムで20年以上にわたって子どもたちの学び場・居場所を創り運営してきた早川千晶さんをお招きすることができました。早川さんからどんなことを学びたいか、どんな形態でどんな場にしていけば、一番学びが深まりそうか、ユース6名のコアメンバーが事前学習と話し合いを重ねて企画を練って用意しました。

当日は、早川さんからの熱いメッセージを含んだ概説のあと、コアメンバーたちが事前に作成した冊子をもとに、次々と自らの活動・関心を紹介し、早川さんに問いかけたいこと、一緒に考えたいことを発題しながら進めていきました。早川さんがそれぞれの問いかけに見事に応答してくださり、途中涙ぐむ学生もいるなか2時間があっというまに経ちました。余韻のなかの終了後の振り返り会でも、スタッフ研修会を、寺子屋ユースゼミナールという名称で継続していくことが決まりました。



日本語教室と日本語教育の現状

京都ユネスコ日本語教室・代表 西川昭寛

2024年の日本語教室は21回行われ、その間延べ59名の受講者に対して主に4名の指導者が延べ74名が指導に当たりました。受講者の国籍は台湾、中国、韓国、ベトナム、インド、英国で職種は大学生、大学院生、小学生、主婦、技術研修者などで、技術研修者で多かったのはベトナムからの研修者でした。



受講の問い合わせは京都ユネスコ協会のホームページ、京都府観光局が発行する日本語マップと空間支援団体であるRingsのHPの情報によるもので、10件以上の問い合わせを受けてきたが、ユネスコ協会のホームページが9月から損傷していることで支障をきたしている。指導者の補充については「ボランティア協会」を通じて公募していただき、来年から新しい指導者が1名増えることになった。

日本語教育の必要性については「多民族共生」を旗頭に国を挙げての課題となっている。京都に於いても「地域における日本語教育推進プラン」が発表された。しかしその担い手が高額を要する「日本語学校」となっているため発展途上国からの技術研修者が通える学校にはなっていない。国は彼らの日本語教育を技術研修者の受け入れ企業に委ねているがその実効性は期待できない。従って社会的な大きな溝となっている。この溝はこれまで長い間篤志家の活動で埋められてきたが、溝が大きくなった昨今では篤志家に代わってボランティアの活動が必要不可欠なものとして社会に組み込まれてきた経緯がある。今年の11月14日、国連の小委員会で「持続可能な開発目標を達成し、誰一人取り残さないためのボランティア活動の強化」と題する日本の決議案が100か国の共同提案国を得てコンセンサスにより採択されたことで、京都ユネスコ協会等が行っているボランティア活動は今後一段と重要性を持つものとして評価されることになると思われる。

英語教室 Kさんを偲んで

前田久夫

英語教室の講師と受講生の多くは団塊の世代です。何らかの病気で悩まされたり、お孫さんの世話をしたり、忙しいながら熱心に教室に通っておられます。その中にKさんがおられました。Kさんは「ひと・まち交流館」の英語教室開講の要請者でした。彼とは40年来の良き友であり、碁敵でもありました。Kさんが膵臓癌と診断されたのが22年9月。ステージ2と「早期発見」でしたが、サイレントキラーと言われるその癌のステージ2の生存率が18%というあるネット情報を見て、愕然としました。診断後、グループラインでKさんの苦悩が幾度となく赤裸々に綴られました。しんどい体調を訴えられたりあまり良くない白血球数の数値に時々言及したりしながらも、できる限りレッスンに出席されました。来られると受講生はジョークや洒落の大好きなKさんをジョークで笑わせ、ラインには激励の言葉、動画、画像、音楽などをアップしました。これらの交流はKさんの苦しみを和らげたり免疫力をアップしたりすることに多少なりとも役立ったのではないかと、思っています。

24年3月15日朝、Kさんから律儀にも電話があり、「今日は体調が悪いので英語のレッスンを休みます」と弱々しい声で言われました。「どうぞ、お大事に」と交わしたその翌日、Kさんは亡くなりました。

後日、娘さんが英語教室にお見えになり、受講生の励ましや情報提供がKさんの大きな心の支えになり、生き続けようとする気力のエネルギー源になったと述懐された時、英語教室の別の存在意義が見えた気がしました。

合 掌

世界文化遺産

賀茂御祖神社（下鴨神社）

宮司 新木直人

〒606-0807 京都市左京区下鴨泉川町59

TEL(075)781-0010

<http://www.shimogamo-jinja.or.jp>

名刺交友録

2025年 新春

世界文化遺産

賀茂別雷神社（上賀茂神社）

名誉宮司 田中安比呂

宮司 高井俊

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 339

TEL (075)781-0011

<http://www.kamigamojinjia.jp>

品質本位の茶づくり

宇治 久小山園

株式会社 丸久小山園 代表取締役 小山元也
〒611-0042 宇治市小倉町寺内 86 TEL 0774-21-3151

美術品販売・展示会・イベント・講演会の企画運営・ホームページ制作

広告制作・カルチャー教室・貸しスペース運営

Au rendez vous des artistes

ランデヴーギャラリー&カフェ

株式会社 アークコーポレーション

代表 山中満子

〒602-8158 京都市上京区下立売智恵光院西入 TEL.075-821-7200

営業時間 11:00~18:00 無休/月曜のみ予約制



小林祥造 Shozo Kobayashi

〒602-8228

京都市上京区猪熊通元誓願寺南入ル 473

tel 075-441-3317 fax 075-441-3389

堀川今出川西陣織会館より南へ徒歩3分

日本国天皇より皇居で叙勲 京都ユネスコ協会理事
瑞宝双光章叙章 立命館大学校友会名誉幹事
法務大臣表彰受賞章 平安講社特別有効章受章
京都府スポーツ賞受賞 菊桜会員平安神宮社務所



取締役社長 福井 正興

京都府木津川市山城町上粕東作り道11 TEL 0774-86-3901

京都ユネスコ協会 監事

長野 博

京都ユネスコ協会 事務局長

加藤 功治

在日本大韓民国民団京都府地方本部常任顧問

三越土地株式会社 代表取締役会長

王 清 一

〒604-8483 京都市中京区西ノ京南上合町38

TEL 075-802-2331 FAX 075-802-23

今後の活動予定

- 1月19日 新年初顔合わせ会 八つ橋庵 刺繍の館
琵琶の弾き語り鑑賞と刺繍美術館見学、懇親会
- 5月17日、18日 芸術展 堀川御池ギャラリー
- 5月 理事会 元山王小学校 プレイルーム
- 5月 総会 懇親会
- 10月18日 ユネスコ運動全国大会 石川県金沢市
- 10月26日 近畿ブロックユネスコ活動研究会 滋賀県長浜市 長浜文化芸術会館
- 11月上旬 自然観察展 元山王小学校体育館
- 常任委員会 毎月 1回 元山王小学校
- 英語教室 毎月 第一 第三 土曜日 事務局において
毎週 金曜日 ひと町交流館
- 日本語教室 毎月 第二 第四 土曜日 事務局において
- こども食堂 毎月 第三 土曜日 CIGOTONoba
- 京都寺子屋 月 2回 元山王小学校 和室



KYOTO UNESCO ASSOCIATION
京都ユネスコ協会

〒601-8004 京都市南区東九条東山王町2-7 元京都市立山王小学校内

TEL/FAX 075-632-9925

E-mail kyoto@unesco.or.jp

(平日 13時30分～16時)

URL <https://kyoto-unesco.jp/>